

■今年度の活動内容設定時に参考とした「他校の環境に関する取組」									
取組 テーマ	取組目標	具体的な活動内容		担当者	活動 主体	取り組んだこと、その実績	１年を振り返って		
生 き 物 みどり 自 然 環境学習	生き物の育成や 自然物の活用を 通し、子供たちの 自然を大切にする 心を育成する。 学習を通し環境に 対する意識を高め る	1	野菜や・花の一人一鉢栽培の実施	各担任	児童	1年生はアサガオ・チューリップ、2年生はミニトマトを個人の植木鉢で栽培した。校内の畑では、季節に応じた野菜や草花を各学年で育てた。校地外の畑で2年生はサツマイモ、3年生が大豆の栽培と観察を行った。支援級では年間を通じ野菜の栽培と観察を行った。1年、2年生は学区の広場で虫取りをし、教室で飼育と観察を行った。ドングリや松ぼっくり、落ち葉を使った絵画制作を楽しんだ。4年生は環境センターの方に来校してもらい、ごみについて学んだ。パッカー車を間近に見ることができ、ごみのことをより身近に考えられた。水についてもお話を伺いその大切さを学んだ。	【取組の評価】 ☒ 達成できた ☐ ほぼ達成した ☐ 達成できなかった 【理由】 1、2年生は一人一鉢の栽培を通し、植物の成長を学ぶだけではなく、「育てる」活動が命を守る学習に繋がることを実感できたため。 【今後の課題】 昨年と比べて活動内容の減少（蛙の飼育、育てる植物の種類）があるので、自然に触れる機会は最低限、維持していく必要はある。 【次年度への引継ぎ事項】 近隣の公園での虫取りでは、虫を探して傷つけないように捕獲するなど命を大切に工夫などが見られたので来年度以降も継続して実施していきたい。		
		2	自然からの贈り物を利用し、表現活動を楽しむ （地域人材の活用）	1・2年担任 支援級担任	児童				
		3	ごみの回収や分別・資源化について学習する	1年担任 4年担任	児童				
		4	上下水道について学習する	4年担任	児童				
省 エ ネ ル ギ ー の 推 進	日常の学校生活 の中で省エネ ギー活動を実践 する。	1	植物の栽培に雨水を利用する。	各担任	児童	低学年はペットボトルを利用した如雨露を個人持ちにし、雨水タンクの水を活用した。植物への水やりや、掃除の際の雑巾濯ぎでは、バケツを利用し水の出しっぱなしを無くした。資源には限りがあること、有効な利用の仕方や無駄使いを無くす学習を学年に応じて行った。電気をこまめに消したり、水道の蛇口をチェックしたり、エアコンの設定温度を配慮したりと先ずは大人がモデルを示し、子どもたちに意識付けをした。晴天の日は窓を開け、自然光の気持ちよさを実感させた。会議等の提案をペーパーレス化したことで、紙の購入量を削減することができた。	【取組の評価】 ☐ 達成できた ☒ ほぼ達成した ☐ 達成できなかった 【理由】 改めて水の大切さや水を得るための苦労や大変さを知ることができたから。また、学習を進めることで具体的な節水の仕方やもったいない水の使われ方などを意識できるようになったと考えられる。 【今後の課題】 限りある資源の有効な使い方を学ぶ学習を継続していき、全体の意識向上に繋げていく必要がある。 【次年度への引継ぎ事項】 今後、どんな省エネ活動が学校全体で取り組めるのか、教職員間で協議していきたい。		
		2	使っていない教室やトイレの電気はこまめに消し、機器の電源はぬく。	各担任	児 童 教職員				
		3	水道使用後の蛇口はきちんとしめる	各担任	児童				
		4	会議等の提案は電子化するなど、印刷やコピーの無駄をなくす。	エコ担当	教職員				
資 源 ・ 4 R 廃 棄 物 の 取 り 組 み	ごみの分別・リサイクル活動を推進し、ごみの量を減らします。	1	教室から出るごみを意識し分別する力を養う。 プラごみの回収。	各担任 美化委員会担当	児 童 教職員	低学年から分別の仕方を学び、特に教室から出る紙ごみとプラスチックごみを区別することを意識させる学習に取り組んだ。クラスのごみの分別を徹底し、委員会の児童が週１回教室を回って回収に当たった。低学年では日常的にごみの削減を呼びかけ、物を大切にする意識を高めた。給食委員会や給食場からのポスター、もぐもぐチャレンジによる給食の残しを減らす活動ができた。昨年に引き続きエコかるたを各クラスで取り組み、環境への意識を高めつつ楽しく活動することができた。	【取組の評価】 ☐ 達成できた ☒ ほぼ達成した ☐ 達成できなかった 【理由】 もぐもぐチャレンジによるクラスでの取り組みでは、各クラスが設定した目標（食べられる量を食べきる、など）を達成することができていたため。 【今後の課題】 地域との4R 活動の連携は、今年度は難しかった。 【次年度への引継ぎ事項】 全校での取り組みが地域へ繋がっていないため、地域と連携できそうな4R などの活動ができると良い。		
		2	持ち物には記名し、最後まで大切に使う習慣をつける。	各担任	児童				
		3	ポスターや新聞等を通し、給食を残さないよう呼びかけを行う。	給食委員会担当	児 童 教職員				
		4	学校全体での取り組みを地域へ広げていく。	エコ担当	児 童 教職員				

●写真等の記録：活動や発表の風景等取組の記録を、必要に応じて添付してください。写真等の下に、キャプションをご記入ください。個人情報の取り扱いにご注意ください。

写真

写真

●学校長（推進責任者）によるコメント

【学校長名】

村越さゆり

【今後の方向性について】

今後も引き続き、環境学習、省エネ、資源再利用等の取り組みを継続し、児童の意識向上を図りたい。児童の意識の変化が、環境問題の改善に向けた学校や家庭、地域での活動になって表われ、やらされる環境学習ではなく、児童自らが新たな課題を設定し、主体的に取り組んでいく、こうした児童を中心とした取組となるよう、考えていく必要がある。

学習指導要領の総則には「環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人を育成するため、その基盤としての道徳性を養う」とある。なぜ、今エコ活動が必要なのか、本質的な意義を少しずつ理解・習得する教育を平行しながら、地域と連携し、児童主体のエコ活動への取組を模索していきたい。